記事テンプレート（段組み１段）

**（案-3）11ポイント 42文字 40行**

所属　氏名

【3/21（木）】三宮を出発した頃は雨で、これからの天候が心配だったが、幸い栂池駐車場周辺は曇りで一安心。ゴンドラとロープウェーを乗りついで栂池自然園駅まで上がり、そこから林道を下って全員無事に大経大小屋に到着した。

大経大小屋は1961年にOB有志によって建てられた2階建ての立派な山小屋だ。荷物等を整理した後、明日からの雪山登山、山スキーに備え、Aさん、Kさん指導の下で雪崩に遭遇した場合のビーコンを使った探査方法、プローブによる捜索方法等を教わり、大変参考になった。その後は早速、各自持ち寄った食料が机一杯に並べられ、恒例の宴会が始まり、夜遅くまで賑やかに歓談した。

**【40周年記念誌記事　案42×40】**

**標準文字サイズ11ポイント**

**＜ページ設定＞**

**余白：上下左右20mm**

**42文字（字送り11.45ポイント）**

**40行（行送り18.2ポイント）**

【3/22（金）】曇りで周辺はガスが立ち込めていたため、スキー組はゲレンデスキー、登山組は栂池自然園の散策をすることになった。スキー組は、ゲレンデが濃い霧に包まれていて視界が効かないため、止む無く視界のきく下側のゲレンデで滑ることになったが、シャーベット状の重い雪で、思う様な快適なスキーはできなかった。一方、登山組は、上空は晴れ渡っていて、栂池自然園からは小蓮華山、白馬岳、鹿島槍ヶ岳等が見渡せ、スノーシュー、ワカンを履いて思い思いに雪遊びを満喫された様で・・・羨ましい限りだ。山小屋に戻ってからは、Kさんが雪崩の危険性判定のためのコンプレッションテストの実演をしてくれて、雪にはどの様な種類、性質があり、弱層がどの様にできて雪崩れるのか説明いただき大変有意義だった。夜は焼肉パーティで・・・大いに食べて飲んで夜が更けていった。

【3/23（土）】やっと晴れたため山スキー組3人はスキーにシールを装着して、登山組はアイゼンを付けて8:00にそれぞれ天狗原(標高2200ｍ)を目指して出発した。山スキー組は出発後頼りにしていたAさんがシール不良で引き返したが、土曜日とあって山スキーのパーティが続々と上がってくるのに勇気付けられて天狗原を目指すこととした。途中、地図で現在位置を確認していたときに偶然、先行していた登山組が下山してくる処に遭遇。聞くと天狗原まで行ったが、天気は良いのもの強風に阻まれて、それ以上の登攀は中止したとのこと。一抹の不安はあったが、その後、スキー組も無事、天狗原に到達。天候の急変も予想されてため、小休止の後、シールを外してスキー滑降で山小屋に戻ることにしたが・・・気合を入れて滑り始めた処、カチカチのアイスバーンにスキーを取られて転倒、左足を捩じってしまいやっとの思いで山小屋に辿り着いた。下山後、Aさん主導でビバークを想定した雪洞つくりの練習、体験をしたりして有意義な時間を過ごした。この日の午後、後発組の3人も合流、また、別例会の唐松岳に行っていた3人も加わり、残り少なくなっていたお酒の差し入れもあり、鍋を囲んで賑やかな宴会が開催された。

【3/24（日）】小雪交じりの朝だったが、8:30に山小屋を後にし、全員無事帰途についた。

記事テンプレート（段組み２段）

所属　氏名

【3/21（木）】三宮を出発した頃は雨で、これからの天候が心配だったが、幸い栂池駐車場周辺は曇りで一安心。ゴンドラとロープウェーを乗りついで栂池自然園駅まで上がり、そこから林道を下って全員無事に大経大小屋に到着した。

大経大小屋は1961年にOB有志によって建てられた2階建ての立派な山小屋だ。荷物等を整理した後、明日からの雪山登山、山スキーに備え、Aさん、Kさん指導の下で雪崩に遭遇した場合のビーコンを使った探査方法、プローブによる捜索方法等を教わり、大変参考になった。その後は早速、各自持ち寄った食料が机一杯に並べられ、恒例の宴会が始まり、夜遅くまで賑やかに歓談した。

【3/22（金）】曇りで周辺はガスが立ち込めていたため、スキー組はゲレンデスキー、登山組は栂池自然園の散策をすることになった。スキー組は、ゲレンデが濃い霧に包まれていて視界が効かないため、止む無く視界のきく下側のゲレンデで滑ることになったが、シャーベット状の重い雪で、思う様な快適なスキーはできなかった。一方、登山組は、上空は晴れ渡っていて、栂池自然園からは小蓮華山、白馬岳、鹿島槍ヶ岳等が見渡せ、スノーシュー、ワカンを履いて思い思いに雪遊びを満喫された様で・・・羨ましい限りだ。山小屋に戻ってからは、Kさんが雪崩の危険性判定のためのコンプレッションテストの実演をしてくれて、雪にはどの様な種類、性質があり、弱層がどの様にできて雪崩れるのか説明いただき大変有意義だった。夜は焼肉パーティで・・・大いに食べて飲んで夜が更けていった。

【3/23（土）】やっと晴れたため山スキー組3人はスキーにシールを装着して、登山組はアイゼンを付けて8:00にそれぞれ天狗原(標高2200ｍ)を目指して出発した。山スキー組は出発後頼りにしていたAさんがシール不良で引き返したが、土曜日とあって山スキーのパーティが続々と上がってくるのに勇気付けられて天狗原を目指すこととした。途中、地図で現在位置を確認していたときに偶然、先行していた登山組が下山してくる処に遭遇。聞くと天狗原まで行ったが、天気は良いのもの強風に阻まれて、それ以上の登攀は中止したとのこと。一抹の不安はあったが、その後、スキー組も無事、天狗原に到達。天候の急変も予想されてため、小休止の後、シールを外してスキー滑降で山小屋に戻ることにしたが・・・気合を入れて滑り始めた処、カチカチのアイスバーンにスキーを取られて転倒、左足を捩じってしまいやっとの思いで山小屋に辿り着いた。下山後、Aさん主導でビバークを想定した雪洞つくりの練習、体験をしたりして有意義な時間を過ごした。この日の午後、後発組の3人も合流、また、別例会の唐松岳に行っていた3人も加わり、残り少なくなっていたお酒の差し入れもあり、鍋を囲んで賑やかな宴会が開催された。

【3/24（日）】小雪交じりの朝だったが、8:30に山小屋を後にし、全員無事帰途についた。

**（案-3）11ポイント 42文字 40行**